

R3. 10. 8 (金) 大地会オンライン研修会 「運動学 (骨運動と関節内運動学)」 質問回答

Q1)

連合回旋について、どの関節でも横方向への滑りが生じると想定して、治療に当たればよいでしょうか？

回答：

質問の意味が分からないのですが、例を挙げて説明します。

肩甲窩上腕関節において手掌を体幹に向けた位置から屈曲 90 度、水平伸展 90 度、内転 0 度と動かしていくと、上腕骨は 90 度外旋位で元の位置になっています。(手のひらは前方を向いています) 平面上を 3 点移動したのではこのような外旋は起こりません。球面上を移動するから水平伸展の動きが関節面での前方への移動となり、結果として外旋が起こります。このように球面上を動くことによって、上腕骨を外旋していないのに結果として外旋が起こるような関節内の動きを連合回旋と呼んでいます。

Q2)

伸長運動の禁忌 (スライド 4) について

「ストレッチングは PT と整形外科医により長い間禁忌とされてきた」とのことですが、当時 PT に処方箋を書く物理医学専門医の見解はどうだったのでしょうか？

回答：

PT は物理医学専門医から処方を受けて治療を行う専門職ですから、PT が禁忌としてきたということは、物理医学専門医から処方が出なかったという意味です。ここでは Physical therapy の治療者が Stretching を禁忌とするのは理解できますが、手術を専門とする整形外科医が禁忌としていたことが重要です。関節拘縮に対して整形外科医は麻酔下で Manipulation という突発的な Stretching を患者に常用していましたから、このように明確に禁忌としていたのに・・・という感じで驚きました。

感想：股関節の pure spinning について、上手く行かず悩んでおりました。側方のイメージで実施してみます。

感想：先日は素晴らしい研修会に参加させて頂き、ありがとうございました。

今後の研修会も時間の許す限り参加したいと思います。いつもありがとうございます。